

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
7	十勝岳	18/100	2,077
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1996.6.16 平成8年		50	
メンバー	主催	北海道旅客鉄道 マウンテングラブ	6/15札幌駅集合 十勝岳山バーデ 上富良野泊
単独	複数	ガイド	ツアー
	人数	リーダー	宮崎氏、宮高氏
	43		6/16、17札幌第2 ワシントンH
十勝連峰最高峰の活火山			
コース	8:05十勝岳温泉⇒12:00頂上12:30⇒14:30展望台		
タイム	<歩程6:55 10・0km 標高差1,147M>		
交通手段	往路	6/16 JR「ライラック」で札幌へ	往路6/18 JAS

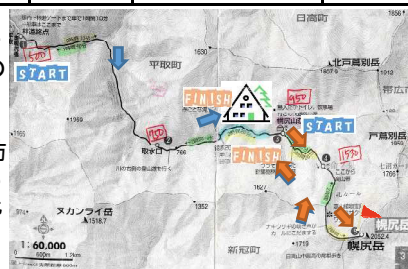
北海道旅客鉄道が主催の山開き記念登山会、全員で安全祈願をしてから出発。参加者は地元北海道の人ばかり、和やかで賑やかだが、“自然保護”に関してはガイドを含めておおらかだった。一応「自然観察指導員」のはしぐれ、ここで何かしなくてはと思いつつ”地元の人に野暮な・・・”と気後れしたか目



をつぶってしまった。資格返上ものだ。登頂後の下りで様相が一変した。それまで普通のおじさん、おばさん達がガイドと共に一団となって頂上からの雪面をあっという間に尻セードで下って行ってしまった。まるで信じられない光景だった。一人置き去りにされた私は見よう見真似ながら尻セードを試みた。やってみると案外行けた！地元らしさという北海道の自然とくらしの一端を観た登山だった。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
8	幌尻岳	98/100	2,052
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2012.8.31 平成24年		66	8/29日高高原山荘 8/30.31幌尻山荘
メンバー	主催	アルパインツアー	千歳空港ホテル に前後泊。空港で 集合解散
単独	複数	ガイド	ツアー
	人数	リーダー	阿波、山田氏他 (百名山達成の朝日岳でも)
	10		9/2KIX経由で帰 宅。
日高山脈最高峰の渡渉難コース			
コース	5:55幌尻山荘⇒9:35頂上10:35⇒13:35幌尻山荘		
タイム	<歩程7:40(当日のみ)21.421.4km 標高差1,552M>		
交通手段	往路	JETSTAR便	バス
			復路 JETSTAR便

参加10名に対してサポートはベテランを含め異例の4名も付いた。元北海道山岳救助隊メンバーの諏訪氏、料理人でもあるベテラン山田氏は100座目の朝日岳でも



お世話になった。初めての渡渉25回のコースに万全な装備で挑んだ。胸までの水と激流を覚悟、楽しみにもしていたものの水深は膝までで空振りだった。沢登りのレベルは色々あるのだから、もっと身近なモノとして親しんで来ればよかったと思った。山頂は360°の雄大なパノラマ。小屋の前で二晩ビニールシートの上での酒盛りと山田氏の手料理で盛り上がった。

山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
9	後方羊蹄山	36/100	1,893
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1999.7.19 平成11年		53	7/18.19ペンション 『グランパ』2泊
メンバー	7/18小樽よりニセコ入り		
単独	複数	ガイド	ツアー
			7/20苫小牧ステーションホテル 7/21札幌
同時登頂百名山	別々登頂 縦走登頂	7/17利尻岳より	
コース	6:10登山口⇒11:52頂上12:40⇒		
タイム	17:10登山口⇒ オーナーの外車で帰還		
交通手段	往路	7/17JR	現地 オーナーの外車で 登山口迄送迎
			復路 7/21JAS

道南の美しいランドマーク

悪天候だった利尻の疲れを癒すかのような天気のニセコのペンションに二晩世話になった。オーナー婦人は元JALのCAで、なんとなくインターナショナルな雰囲気、暮らし方もアメリ



リカンだ。息子はアメリカに留学中で、代わりに15歳男の子がホームステイしていて英語で会話していた。7/19オーナー自慢のコンバーチブルの白い外車で登山口迄送迎してもらった。10時間掛けてゆっくり標高差1543mをピストンした。山頂は晴れたが下界が見えない分、花々を観て楽しんだ。下山後の二泊目は一家とバーベキューレストランでジンギスカンの夕食。ファミリーなペンションだ。

山番号	山名 (別名)津軽富士	登頂順	標高M
10	岩木山	59/100	1,625
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
2002.7.18 平成14年		56	
メンバー	7/15、16仙台ホリデーイン。7/17弘前「あすなろ荘」(客一人)7/18名古屋 ホテル「R&B」		
単独	複数	ガイド	ツアー
			7/19小谷村の「柄の木亭」、7/20雨飾山へ
同時登頂百名山	別々登頂 縦走登頂	7/20雨飾山へ	
コース タイム	7:00岩木山神社⇒12:10～30頂上⇒13:45八合目 ＜歩程6:45 11.5km 標高差1,455M＞		
交通手段	往路:ANA, 7/17バス	現地:バス、7/18JASで名 古屋へ、7/19JRで小谷へ	7/19JRで小谷 泊7/20雨飾山
津軽平野に聳える名峰「お岩木様」			
<p>会社で9/15付けの退職手続きをして、午後から残った有休を消化しての全行程9日間の旅へ出た。とは言え今回は仕掛りの仕事の合間の登山となった。仕事が自営に転じたら、マイペースの登山が出来る。百名山を</p> <p>本気で挑戦する意欲が高まったのもこの頃だ。しかし自営に転じたら、却って仕事に追われてマイペースとは行かないことも多かった。7/18”奥の日光”麓の岩木山神社の鳥居をくぐって独立峰を真つすぐ登頂、ひと気の少ない山頂で鐘を突いてから嶽温泉側へ下った。ゆっくり温泉に浸かってからバスで弘前経由青森空港へ。JASで名古屋入り、7/19仕事をした後、7/20登る雨飾山へ向かった。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
11	八甲田山	19/100	1,585
登頂年月日	山頂天候	年齢	山中宿泊小屋
1996.10.5 平成8年		50	10/5民宿「南部屋」 (4年前大谷氏との八幡平以来2度目)
メンバー	10/3札幌、小樽国際H 10/4青森、ワシントンH		
単独	複数	ガイド	ツアー
	人数	同行者	10/6 奥入瀬、十和田湖～帰阪
	2	同僚の浅海氏	
八つの峰々からなる成層火山群の主峰大岳と湿地、池、池塘			
コース タイム	8:55、ロープウェイ終点⇒頂上⇒15:00酸ヶ湯 ＜歩程6:30 9.1km 標高差699M＞		
交通手段	往路:ANA	現地:バス、ロープ ウェイ、バス	復路:JAS
<p>赤倉岳、井戸岳から八甲田大岳に登り、酸ヶ湯に抜けるコースを歩いた。小説『八甲田山死の彷徨』で有名だが、錦繡の紅葉に染まる穏やかな秋山だった。</p> <p>灌木帯を抜けると突然目の前に開けた毛無岱の息を飲む見事な紅葉は多分生涯忘れ得ない光景だろう。紅葉の高原を抜けて酸ヶ湯温泉に立ち寄った。薄暗く広い木造の湯殿に斜めに光りが射し込み、湯気の中にまばらに混浴客の姿が光と陰になって寛いでいた。宿は二度目の民宿「南部屋」、おかみさんの三味線を聞きながら、改めて毛無岱の紅葉を眼下に思い浮かべていた。</p>			



山番号	山名 (別名)	登頂順	標高M
12	八幡平	9/100	1,613
登頂年月日	山頂天候	年齢	1年前右足の小指の付け根の小指骨を折って以来運動不足となり、この年8月に剣御前に登ってから登山を再開した。八幡平はまだ百名山は意識がないが序章となった。
1992.10.18 平成4年		46	
メンバー	10/16民宿「南部屋」 10/17奥入瀬、十和田湖 ペンション「絵具箱」		
単独	複数	ガイド	ツアー
	人数	同行者	10/18八幡平、田沢湖～盛岡ホテルメトロポリタン
	2	協力設計事務所の大谷氏	
高原の美が集約された逍遥型の楽園、頂上に火口湖や池塘			
コース タイム	大沼湿地一周⇒後生掛温泉自然探究路⇒山頂、沼一周 ＜歩程6:30 標高差699M＞		
交通手段	往路:10/16JRバスで 十和田湖へ郷民宿泊	現地:10/18バス田沢湖 經由盛岡泊	復路:10/19台温泉「中 島旅館」、10/20JAS
<p>百名山は全てを完登するもよし、自分の趣向、体力に合う山を選んで登るもよし、百人百様で良いと思う。私は前半は正に後者だったが何時しか途中から自分の体力も顧みず完登志向に転じてしまった。深田久弥は山には二つの登り方が有ると言っている。全身汗して登る山と、逍遥して楽しむ山が有ると言っている。名前の如くほぼ平坦な八幡平は正に逍遥型だ。だからと言って、主体たる本峰に至るプロセスを踏んでこそドラマになるのだからアクセスはむやみに乗り物に頼るのも味気ない...と言いつつ今回はバスを活用した。大沼湿地から後生掛温泉の自然探究路を経て山頂へ。そこから八幡沼を一周して、バスで田沢湖經由盛岡へ抜けるという欲張った現地日帰りコースを堪能した。</p>			

